

戦争法案はんだ〜い! 憲法をまもれ〜!



「戦争法はんだ〜い!」などとシュプレヒコールデモ行進する参加者

民報

おうしゅう

読者版

撃法案撤回・廃止緊急胆江地区集会に100人余参加

発行
赤旗奥州出張所
水沢区字久田 62
Tel 24-2021
Fax 24-2049



連帯のあいさつの
千田みつ子さん

安倍自民・公明政権が、「戦争法案」を、衆院安保法制特別委員会でも強行採決した7月15日の夜、「戦争法案撤回・廃止緊急胆江地区集会」が開催され、約100名以上の市民が参加しました。集会後、市役所玄関前広場から水沢駅前まで、シュプレヒコールをあげながらデモ行進しました。(写真上)

必ずこの法案を阻止するために全力で奮闘する：千田みつ子さん

集会では、日本共産党を代表して、千田みつ子党胆江地区県政対策委員長が、連帯のあいさつを行いました。(写真④)

千田みつ子さんは「私たちはいま、市政報告と戦争法を語るつどいを開いています。佐倉河地区の参加者は『父が戦死したけれども骨箱にはなにも入っていません。』などと話していました。私も街頭演説などで、安倍政治は許さないと怒りを込めて訴えています。私はこの法案を阻止するために、全力を挙げて奮闘します。」などと力強く訴えました。

青年や女性、看護師、教師、弁護士さんが「リレートーク」



岩崎実行委員長が怒りの主催者挨拶

実行委員長(胆江労連議長)が、主催者を代表して、「戦争法案は、今日衆院特別委員会でも強行採決された。しかし、反対、撤回、慎重審議が国民の圧倒的世論だ。法案をつぶすために懸命になりましょう。」などと決意を表明しました。

強行採決に怒りと抗議のトーク



強行採決に怒りと抗議の訴えを行いました。

集会では、青年代表や女性、看護師、教師、弁護士がリレートークを行い、それぞれの立場から強行採決に怒りと抗議の訴えを行いました。

万年の森残土処理費用に9千8百万円

7月15日の議会全員協議会で、小沢市長は『万年の森』(前沢区)の残土処理費用に、9千8百万円の市費(市民の税金)を要すると報告しました。市長の説明によると、市当局の見通しの誤りから、多額の市費を投ずることになったことは明らかです。

市長は胆沢統合中学校問題に次ぐ今回の多額の市費負担についてその責任と原因を、明確にすべきです。

子記 国民の確かな力

安倍政権を包囲する国民の確かな力

7月14日、私は東京の日比谷野外音楽堂で開催された「戦争法案廃案! 強行採決反対! 7.14大集会」に娘と参加しました。

東京滞在は約4時間という強行スケジュールでしたが、約2万人が会場の内外を埋め尽くすスケールの大きさに圧倒されました。この集会には、日本共産党、民主党、社民党、生活の党と山本太郎と仲間達の4党から国会議員が多数参加しました。

連帯の挨拶に立った、日本共産党の山下芳生書記局長は、「法案の審議が進めば進むほど、反対の声が広がっている。強行採決は許されない。憲法違反の法案はどんなに審議しても合憲にはならない。海外の戦場に送られる若者達が空前の規模で立ち上がった。命を生み出す女性たちが子ども達を戦争に送らないと立ち上がった。平和と民主主義を求めるエネルギーを抑えることは出来ない。必ず戦争法案を廃案にしよう!」と力強く訴えました。



最終の新幹線でトンボ帰りするため、デモ行進には残念ながら参加できませんでしたが、安倍政権を包囲する国民の確かな力を感じながら、帰路に着きました。